

# 熊本地域医療センターだより

院長 清住雄昭

令和2年(2020年) 1月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

2020

1

通算176号

月号

## 熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。  
紹介してよかった。  
働いてよかった。  
そんな病院をめざします。

## contents

|                      |    |
|----------------------|----|
| NST(栄養サポートチーム)について … | P2 |
| 本日のお勧め……………          | P2 |
| 第4回 藤がん長生きの会に参加して……  | P3 |
| クリスマスコンサートを開催しました…   | P3 |
| 熊本リレーマラソンを終えて……………   | P4 |
| 連携の会ちいねっとを開催いたしました   | P4 |

## 年頭の辞



副院長 杉田 裕樹

2020年になりました。今年は誰もが待ち望んでいる東京オリンピックが開催されます。昨年のラグビーワールドカップに続いて大成功となることを期待しているのは私だけではないでしょう。21世紀になり19年もの

歳月が流れて、いまやコンピューターや、インターネットがなくては何もできない (ICT) 社会となりました。医療の現場にもどんどん取り入れられています。また、日本における少子高齢化はますます進み、社会問題となっています。

少子高齢化や地域による医療格差など地域医療の様々な問題の対策として政府が進めている地域医療構想の目標としている2025年まであと5年となりました。昨年9月、厚生労働省から統合を検討されるべき病院として発表されたりリストに当センターが含まれていましたので、患者さんや職員、医師会員の先生などにご心配をおかけしました。これは厚生労働省が地域医療構想において公的病院を統廃合することで効率化、急性期病床削減を進めることを目的としているものです。今回単に診療実績データと施設の地理的位置(近くに似たような病院がある)で評価されており、各地域での必要性、貢献度などはほとんど考慮されておらず、また当センターに関して自治体や医師会は統廃合の計画を立てているわけでもありません。少なくとも当センターに関しては意味のないものと思われま

す。当センターと医師会員の先生は密な連携をとっており、紹介患者さんをいつでも受け入れる体制をとっています。開放型病院で、共同施設利用が可能であり、医師会員の先生は手術や診察、外部からのカルテ閲覧やCT、MRI、内視鏡や超音波検査依頼なども可能です。また休日夜間

急患センターは、当センター開設以来約40年間にわたり市民がいつでも医療機関を受診できるよう市の委託事業として医師会にて行われてきました。4年後にせまった医師の働き方改革の問題がありますが、現在のところこれからは継続する計画になっています。医師会員の先生方のバックアップ病院として、紹介し易くてクオリティーの高い医療を使命としており、なくてはならない病院です。病院の理念は、「かかってよかった、紹介してよかった、働いてよかった、そんな病院をめざします。」であり、今後も急性期疾患を中心に診療を行っていく計画です。

当センターは昭和56年に開設されており、本館(外来、中央放射線部、検査部、内科、外科病棟、手術室など病院の大部分)は開設当初のもので、老朽化が進んでいるとともに、その構造が時代にそぐわなくなっています。最近患者さんからアメニティーが悪いとのクレームが増加しているのが現状です。また2016年熊本地震にて強い打撃を受けました。そこで2018年11月から病院建築委員会が立ち上がり、本格的に病院建て替え検討が始まりました。このとき当センターのこれからの存在意義や役割について十分話し合い、前述しましたようにこれまでの路線で継続することとなりました。そして2019年11月8日熊本市医師会は当センター立て替えを決定いたしました。建物の設計などはこれからですが、病床数は現在の227から204となり、現在の本館を第5駐車場に建て替える計画になっています。建て替えは当センターを利用する患者さんや紹介医、職員にとって大変喜ばしいことだと思います。私たちは新病院建築に向けてワンチームとなり、できるだけ早く実現するよう努力しなくてはなりません。

これからも熊本地域医療センターをどうぞよろしくお願いたします。

# NST（栄養サポートチーム）について

栄養管理・褥瘡対策委員会 委員長 笹原 誉之

NST（Nutrition Support Team）の歴史は古く1970年代初め米国シカゴで中心静脈栄養の適応判定と適正使用を目的として生まれ、日本には1990年代末に多職種兼業のチーム医療として広まりました。今では厚生労働省も後押しし、病院機能評価などでも評価項目として定着し広く知られています。

当院においては2007年末頃から当時のDr.石河（外科）を中心に活動が始まりました。以後毎週NST回診を行うとともに年1-2回勉強会や症例検討会を開催してきました。リハビリ部門の充実により周術期リハも含め幅広く活動しましたが、当初はST（Speech Therapist：言語聴覚士）不在のため嚥下機能評価等が難しい時期もありました。しかし、2016年からはST佐藤がメンバーに加わりより充実したNST活動が可能となり、誤嚥性肺炎の治療や予防等にも役立っています。

また、同時に褥瘡管理に関してもNs大内（皮

膚・排泄ケア認定看護師）や非常勤の皮膚科Dr.の指導の下、同様の活動を行い褥瘡の発症率の低下や治療に成果が出ています。

多職種（看護師・栄養士・PT・OT・ST・薬剤師・医師等）で多くの意見を出し合って栄養や褥瘡のサポートを行うために、皆様のご理解とご協力を改めてお願いいたします。



本日の  
お勧め

小児科  
西 奈津子



## 「アレルギー診療センターのご紹介」

平素より大変お世話になっております。熊本地域医療センター小児科の西奈津子です。

小児一般診療及びアレルギー診療を担当しております。

小児アレルギー分野では食物アレルギーの患者さんが多く、年間約500例の食物負荷試験を行っております。気管支喘息やアトピー性皮膚炎にも対応しており、また当院の特徴として24時間小児科医が常駐し救急患者を受け入れています。そのためアナフィラキシーなど重篤なアレルギー患者に常時対応可能な体制となっております。

2019年3月に、熊本地域医療センターは熊本県アレルギー疾患医療連携病院に認定されました。これを機に、このたび当院では「アレルギー診療センター」を開院いたしました。当センターは小児だけでなく、成人アレルギー疾患に対しては呼吸器内科の津村医師が対応しております。また、医師だけでなく、小児アレルギーに関して高度な知識と指導技術を習得した小児アレルギーエデュケーターが子供たちの成長や生活の支援を行い、管理栄養士による個別の栄養相談にも対応しております。気管支喘息に対しては臨床検査技師とともに呼吸機能検査、呼気NO検査、呼吸抵抗検査を取り入れた科学的評価の元、適切な治療選択を心がけています。

アレルギーの状況は個人差が大きく、ひとりひとり丁寧な問診・診察を心掛けておりますが、一人当たりの時間がどうしても長くなってしまい、お話を伺うだけで一時間以上を要する場合があります。そのため専門外来は完全予約制となっておりますが、診察までに長くお待たせしてしまう場合もあり申し訳なく思っています。診察時間等のやりくりについては模索しているところです。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## 第4回 膝がん長生きの会に参加して

よかところネットサポーターメンバー

毎年恒例になっている膝がん長生きの会が10月5日に開催されました。当センターで手術後3年を経過した人に案内状を送っていますが、今年は5月の『リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019くまもと』で膝がんのミニサロンを開催したこともあり、当院以外からも参加があり24名の患者・家族の方が参加されました。

膝臓の話、ステーキ・ジョブズ、黄泉がえり、キンキラキンの発祥の地など話題あふれる話を廣田先生が講話されました。今回の話も好評で参加された方はメモを取りながら話を聞かれています。また、黄泉がえり again の中には地域医療センターの話が2回出てくることを話され、どよめきがあがりました。

その後は参加者とフリートークの時間としましたが、会を重ねるごとに顔なじみの方も多く会話が盛り上がり、時間が足りないとの意見も上がりました。また、恒例である栄養科からのお手作りお菓子（おからチョコレートケーキ）は参加者に好評でした。

この膝がん長生きの会は当センター独自の会です。手術後10年以上の方も数名いらっしゃいます。毎回参加を楽しみにしている方もいらっしゃるのです。今後も継続していきたいと思えます。



## クリスマスコンサートを開催しました



病院機能向上・患者サービス委員会 森川 沙樹

12月5日（木）、秋桜（コスモス）倶楽部の皆さんによるクリスマスコンサートを開催しました。結成17年目の秋桜倶楽部の皆さんは、当院では16回目となるトーンチャイムによる演奏を披露していただきました。トーンチャイムはアルミ合金製のパイプをたたいて共鳴させる楽器で、やわらかく響く美しい音色が魅力となっています。クリスマスソングの演奏でよく見かけるハンドベルと演奏の仕方が少し似ているかもしれません。

コンサートは第1部が「上を向いて歩こう」や「ジュピター」などの計5曲、第2部は「サンタが街にやって来る」や「We Wish A Merry Christmas」などの有名なクリスマスソング5曲で構成されていました。おなじみの曲も多く、プログラムに載っていた歌詞を見ながら口ずさむ患者さんもいらっしゃいました。



また、プログラムの合間で行われたトーンチャイム体験では、「ド」から「ラ」の6本のトーンチャイムを患者さんやご家族がそれぞれ担当し、秋桜倶楽部の方にサポートしてもらいながら、「きらきら星」を演奏しました。一人一人の音色が響き、周りの方も一緒に音を口ずさみ、会場が一つになった素晴らしい演奏となりました。

患者さんやご家族の方に多く参加していただき、ころろ安らぐ時間を過ごすことができました。

熊本地域医療センター  
市民公開講座の  
お知らせ

日 時：令和2年（2020年）2月8日（土） 14：00～15：30  
場 所：熊本地域医療センター新館6階ホール  
メインテーマ：血便が出たらどうする？  
定 員：150名

お問い合わせ先：熊本地域医療センター地域医療連携室 096-366-1323

# 熊本リレーマラソンを終えて

栄養科 大塚 健司

11月3日（日）に熊本県民総合運動公園で第7回熊本リレーマラソンが行われました。当センターのランナーズクラブとして医師、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士からなる計11名のチームで参加してきました。当日は天気にも恵まれ、気持ちよく走ることができました。

リレーマラソンでは1周2kmのコースをチームでタスキを繋いで21周（42.195km）を走ります。5周連続で走る猛者や元運動部の体力自慢に多数参加していただけのため、昨年と比べて30分ほど速く、3時間37分24秒で42.195kmを走りきることができました。

昨年度に作成したのぼり旗はリレーマラソンでは初披露となりました。スタンドに熊本地域医療センターの旗があることで、チームとしての結束力が増したように思いました。

さて、現在マラソンシーズンの真最中です。ランナーズクラブでは女子駅伝や熊本城マラソンを目指していますが、いきなりマラソンは無理でも日々のトレーニングや練習に興味のある方はお試し参加してみませんか？熊本地域医療センターランナーズクラブでは、仲間を募集しつつ元気に活動して参ります。



## 患者支援室 連携の会ちいねっとを開催いたしました

医療ソーシャルワーカー 濱田 利華



昨年11月14日（木）に熊本地域医療センター患者支援室 連携の会ちいねっと（以下ちいねっと）を開催致しました。ちいねっとは、平成30年度に日頃連携を行う地域の介護保険事業所と当院患者支援室職員及び外来認定看護師との顔の見える関係作りを目的とし発足致しました。今回も多くのケアマネージャー・訪問看護師の方々にご参加いただきました。第2回目の今回は、『わたしらしくをささえ、つなげる』をテーマとし、当院の検査診療部長 兼 循環器内科部長 平井信孝医師より「心不全の終末期医療～病院と在宅医療をつなげる～」を講演致しました。心不全の終末期の患者さんを在宅と医療機関でどのように支えていくのかを、在宅チームの観察点の説明や今後活用が期待されるICT（情報通信技術）についても講演を通して学ぶ機会となりました。講演後は当院外来認定看護師・患者支援室の取り組みを紹介させていただき、会後半の交流会では参加者の方々から「先生のわかりやすい講演により心不全終末期医療について知ることが出来た」「院内の取り組みを知ることが出来た」等の言葉を頂きました。会を通し、地域の介護保険事業所の方々と顔の見える関係を築くことが出来たと感じております。

私たち患者支援室は、ご紹介いただきました患者さんの通院から入退院、地域生活において『わたしらしく』過ごしていただけるよう日々相談・調整を行っております。今後も、患者支援室が患者さん家族を中心に院内外の方々と「ONE TEAM」となれるよう精進してまいります。今後とも宜しくお申し上げます。

## 次回の熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／1月27日(月) 19:00～

場所／熊本地域医療センター  
2階 多目的ルーム



「肝癌外科的治療の Up date」

CC 0：その他

外科 岡部弘尚先生

## 熊本地域医療センター

- 医師へ直接紹介される方はこちら ☎096-363-3311 (代表)
- 何科に紹介するか迷っている場合はこちら (平日9:00～17:00)
- ※ベテラン看護師が対応いたします！ ☎096-372-0600
- 画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室) ☎096-366-1323

### 編集後記

Y ⇒ 令和2年を迎え、新病院建設も進展します。看護業務の効率化先進事例アワード2019で最優秀賞を受賞しましたし、某大学の「やっぱり作戦」にあやかり、「やっぱり、かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。」と言われるような病院をめざしたいと思えます。本年もよろしくお願ひいたします。

S ⇒ 今号で編集後記を書くのも最後となりました。約6年半、連携室に所属し、その間多くの経験をさせていただきました。2020年からは総務課へ異動となりますが、今後もセンターだよりを愛読し続けます。ケンシム9永久不滅です☆

H ⇒ 新年あけましておめでとうございます。年末年始ご出動いただいた先生方、誠にありがとうございました。本年もよろしくお願ひいたします。とところでSさん異動なんて聞いてないですよ!!びっくりしましたが、今後はっきり仕事をこなせるように頑張ります!!